

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

平成29年度プレカット部材共済会通常総会が開催

— 瑕疵保証付き部材で安全安心の提供を —

全国住宅プレカット部材共済会は、平成 29 年度第 1 回理事会・第 15 回通常総会を平成 29 年 9 月 29 日（金）に永田町ビル 4 階 一般社団法人日本治山治水協会大会議室において開催しました。

総会の冒頭、原田会長から「平成 28 年度事業は、最少目標棟数を 734 棟として、平成 28 年 8 月 8 日にスタートし、これの達成のため、事業参加会員の皆様にご努力・ご協力をお願いすることで事業に取り組んだが、保証書発行棟数は 549 棟で事業を終了することになった。

最近の住宅着工数の動向は、年率換算値でみると 100 万戸前後で推移し、住宅需要の回復が感じられる状況になっている。このような中で、公共建築物木造化促進等の非住宅分野での一般流通材を使用した木造建築物が増加していることから、会員の皆さんにおいては、今後、需要が見込まれる非住宅分野の木造建築物用プレカット部材供給が新たな販売ツールとして活用していただけると期待している。

改めて、全会員がプレカット部材瑕疵保証事業の役割の重要性を再認識し、共済会のプレカット部材瑕疵保証事業が会員の相互扶助の精神に基づき充実しつつ、今年度においては、ぜひ目標棟数の確保が図れるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見ご助言を頂き、平成 28 年度事業計画を決定していただきたく、ご審議の程をよろしく願います。」旨の挨拶がありました。

議事では、平成 28 年度事業報告及び収支決算報告、平成 29 年度事業計画（案）及び収支予算（案）が提案、承認されました。特に、29 年度においては、会員の安定経営のためのリスク保全事業の一部として、新たにプレカットミス賠償責任保険制度による事業を展開することとし、加入促進を図りつつ、その円滑な事業推進に努める。また、①共済会とプレカット協会との連携強化、②共済会会員の啓発活動の推進、③顧客への普及活動の強化を重点的に講じることといたしました。さらに、役員を選任が行われ現在の役員が再任されました。

議事終了後、プレカット部材瑕疵保証事業の協力会社である M&K コンサルタンツ（株）大串企画開発部長から、住宅瑕疵保険の現状とプレカット部材瑕疵保証制度について講演が行われました。その中で、①住宅瑕疵担保履行法の資力確保では近年、供託と住宅瑕疵担保責任保険申込の割合が 5 割ずつで推移していたが、前年度は若干住宅瑕疵担保責任保険の申込みが増えつつあった。これは、供託で金額的にメリットのあったビルダーが着工件数の減少によって保険を選択した方が有利になりつつあるためと、施主に対して第三者の検査が入る瑕疵保険をアピールしているビルダーが増えつつあるからであり、プレカット部材瑕疵保証制度も同様にプレカット部材の品質が高いからこそ保証を付けることが可能なことを改めてアピールすることで活用できる。②宅建業法改正の全面施行がいよいよ平成 30 年 4 月からスタートすることになり、今後の中古住宅売買においては国の登録を受けた講習機関が行っている講習を修了した一級建築士が建物状況調査（インスペクション）を行うことが多くなっていく。このインスペクションのときにプレカット部材の瑕疵保証制度の保証書が活かせることになり、中古住宅売買が行われる際にも部材保証付きとして他物件との差別化ができるということを建築業者に伝えてほしい。と瑕疵保証制度推進のための説明がありました。

木の街づくりの推進に向けて

— 平成29年度木材利用推進全国会議が盛大に開催 —

木材利用推進中央協議会（会長 吉条良明全木連会長 構成：47都道府県地域協議会、17中央会員団体（当協会も参加））は、7月31日（月）に江東区新木場の木材会館において、平成29年度木材利用推進全国会議を開催しました。会議では、主催者として吉条会長のあいさつに続き、来賓として、玉置林野庁木材利用課長、武井国土交通省木造住宅振興室長の祝辞があり、引き続いて「公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み」の発表が行われました。まず、国の施策・取組として、林野庁木材利用課

玉置課長は、「木材需要の拡大について」というタイトルで、公共建築物での木材利用の事例、木質バイオマスのエネルギー利用、木材製品等の輸出拡大策やクリーンウッド法等の紹介がありました。次に、国土交通省官庁営繕部木材利用推進室 村上室長は、「公共建築物における木材利用の推進」と題して、木材利用に関する技術基準の整備と普及、木造計画・設計基準改定のポイントや木造耐火建築物の整備指針及び官庁施設の木材利用の事例等を紹介しました。また、文部科学省文教施設企画部施設助成課 益居課長補佐は、「木材を活用した学校施設づくりの促進」について、学校施設における木材利用の促進や木の学校づくり事例等を紹介されました。

講演会では、株式会社東畑建築事務所 中村文紀理事が「木の街づくりへの取組み事例」、桜設計集団一級建築士事務所 安井昇代表が「中高層木造建築物の耐火及び新潟県糸魚川大火の教訓」のタイトルで講演を行いました。

全国会議の中では、木材利用推進中央協議会主催による「平成29年度木材利用優良施設」の表彰も行われました。これは、木造建築物等において地域材を有効活用した施設、木材利用分野を拡大した施設、低位利用木材を有効活用した施設など、木造建築物の普及のため他の模範になる施設を表彰し紹介するものです。今回の表彰施設は次のとおり、農林水産大臣賞として、京都木材会館（京都府）が選定されたほか、林野庁長官賞3件、木材利用推進中央協議会会長賞4件が表彰されました。

（農林水産大臣賞） 京都木材会館（京都府）

（林野庁長官賞） 訓子府町幼保連携型認定こども園「わくわく園」（北海道）

羽黒高等学校新校舎棟（山形県）

池上線戸越銀座駅（東京都品川区）

（木材利用推進中央協議会会長賞）

特別養護老人ホームすみた荘（岩手県）

ねばねの里「なごみ」（長野県）

五條市上野公園総合体育館「シダーアリーナ」（奈良県）

福岡女子大学図書館棟（福岡県）

平成29年度プレカットCAD技術者研修の予定

29年度のプレカットCAD技術者研修の開催予定は下記のとおりです。受講申込みは、各コース別に11月中旬以降開始する予定です。なお、1級コースの受講資格は、既に当協会のプレカットCAD技術者2級に登録されている方といたします。

研修コース	年 月 日	会 場	定 員
2, 3級コース	平成30年2月1・2日	東京：木材会館	80名
1級コース	平成30年3月1・2日	東京：木材会館	30名

協会会員工場基礎調査結果について(平成28年第3回)

1 主要構造材加工設備の保有数等

		なし	1	2	3	4台以上	計	1工場当り 平均保有数	(前年平均)
横架材 加工 ライン	工場数	5	18	14	4	1	42		
	延台数	0	18	28	12	5	63	1.50	(1.71)
	うち金物対応 工場率(%)	0	61	79	100	100	64		
柱 加工 ライン	工場数	3	22	13	2	2	42		
	延台数	0	22	26	6	8	62	1.48	(1.65)
	うち金物対応 工場率(%)	0	59	85	100	100	67		
複合 ライン	工場数	33	9	0	0	0	42		
	延台数	0	9	0	0	0	9	0.21	(0.26)
	うち金物対応 工場率(%)	0	100	0	0	0	21		
ロボ ット	工場数	25	16	1	0	0	42		
	延台数	0	16	2	0	0	18	0.43	(0.39)
合計(延台数)		0	65	56	18	13	152		

2 羽柄材加工設備等の導入状況

		保有台数別工場数					導入を 予定	導入を 検討中	予定 なし	合計
		1台	2台	3台	4台以上	計				
羽柄材 加工 設備	工場数	19	15	5	3	42	0	0	0	42
	割合(%)	45.2	35.7	11.9	7.1	100	0	0	0	100
	(前年割合(%))	(44.7)	(39.5)	(7.9)	(5.3)	(97.4)	(0)	(0)	(2.6)	(100)
パネル 加工 設備	工場数	21	8	4	1	34	0	0	8	42
	割合(%)	50.0	19.0	9.5	2.4	81.0	0	0	19.0	100
	(前年割合(%))	(50.0)	(23.7)	(7.9)	(2.6)	(84.2)	(0)	(0)	(15.8)	(100)
大断面 加工 設備	工場数	10	1	0	0	11	1	5	25	42
	割合(%)	23.8	2.4	0	0	26.2	2.4	11.9	59.5	100
	(前年割合(%))	(13.2)	(2.6)	(0)	(0)	(15.8)	(7.9)	(21.1)	(55.3)	(100.0)

◎簡単なコメント

- 1 1工場当たりの各加工ラインの数を前回調査時(平成27年12月)と比べると、横架材、柱加工、複合ラインではともに減少傾向が見られますが、ロボットにおいては増加しています。これは、最近の横架材加工ライン等でも多様な部材加工が可能となってきたことから、工場の生産効率を高めるため、従来からの既存設備が見直されつつあることも一因とみられます。
- 2 羽柄材加工設備は、全ての調査対象工場で設置されており、また、パネル加工設備も8割以上の工場で設置されています。既に、これらはプレカット工場にとってスタンダードな設備といえるでしょう。
- 3 一方、前回から調査を始めた大断面加工設備は、25%強の工場で設置され前回に比べて1割以上の伸びとなっています。今後も、導入を検討されている工場も多く見られ、新たな需要分野である非住宅木造建築物に対応するため、導入が促進されるものと推測されます。

プレカット業況調査(平成29年8月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率:51%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	35	56	9	+26	+12
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	18	62	20	-2	+19
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,020円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	6	79	15	-9	-4
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	9	85	6	+3	-12
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	6	76	18	-12	-11
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	3	56	41	-38	-23
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	15	68	17	-2	+8
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	12	65	23	-11	+7

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査:平成29年5月

◇簡単なコメント

8月の各設問のDIをみると、受注額は好調を維持しているが、収益については若干の悪化となっている。3ヵ月後については受注額は変わらず収益は悪化すると予測している。これに対して、加工単価については大半の会員が変わらずの予想であるが、数字上は悪化の予想どおりに推移している。しかし、先行きはいくらか好転する予想となっている。また、資材の入手環境は、困難が上回っており、今後も予断を許さず、3ヶ月後もタイト感が続く見通しである。今後は、秋の本格的な需要期に向けて、現在の受注額、収益がどの程度維持されるのか期待したい。

1. 受注額のDIは+26で前回調査時(平成29年5月期)に比べて、好転しており秋の需要期を反映している。また、3ヶ月後の予測のDIは-2で現状と変わらない予想である。今後、秋の本格的な需要期を迎え、業況の活性化がもたらされるものと期待される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-9と下がっているものの大半の会員は変わらずの状況となっている。平均総加工単価も6,020円と3ヵ月前と比べて変化はない。3ヵ月後の製品加工単価のDIは+3で、受注量は変化がない中、加工単価の上昇はいくらか期待出来るような現状にあるといえる。
3. 資材入手状況のDIは-12でタイト感が続いている。3ヵ月後の予測のDIは-38(前回は-23)であり、この困難な状況は続くものとみられる。
4. 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは-2とあまり変化がなく、前回調査時の3ヶ月後の収益予測が+7であったにもかかわらず少々勢いをなくしている。さらに、3ヶ月後の収益予測は好転を予想する向きもある中で-11と、少々厳しい先行き模様となっている。